

○事業所名	江東区こども発達センター		
○保護者評価実施期間	2025年1月8日		～ 2025年1月21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	267	(回答者数) 226
○従業者評価実施期間	2025年1月10日		～ 2025年1月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	24	(回答者数) 24
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者との密なコミュニケーションと情報共有 保護者の87.1%が「日頃から子どもの状況について共通理解ができています」と評価し、すぐるなどのツールを活用した情報発信に97.3%の高い満足度がある。	面談時や登園・降園時の対話、「すぐる」アプリを活用した活動記録の詳細な配信、定期的な個別面談の実施。 クラス便りでプログラム内容を事前に知らせ、実施後の様子も配信するほか、保護者からのニーズを聞き取り、面談でその内容に触れるなど、多角的な情報共有の仕組みを整えている。	保護者の関心が高いテーマに関するミニ勉強会を開催し、専門的知識を共有する機会を設けることも、より広い文脈での情報共有として有効になるかもしれません。
2	個別支援計画の質の高さと丁寧な説明 保護者の92.9%が「こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上での個別支援計画作成」を評価している。また、94.2%の保護者が支援内容の丁寧な説明を受けているとしている。	保護者からのニーズを丁寧に聞き取り、5領域に分けて具体的な目標設定を行う。 丁寧な説明を行い、実施可能な内容を具体的に記載しています。 職員間で計画の共有ができるようにしている。	就学や他機関への移行を見据えた長期的視点で作成する工夫を検討していきます。 保護者が家庭で継続できる取り組みをより具体的に計画に盛り込み、「支援の卒業後」も視野に入れた計画が作成できるようにしていきます。
3	清潔で適切な療育環境の整備 職員の100%、保護者の91.6%が「生活空間は清潔で心地よく過ごせる環境」と評価している。施設の修繕により清潔感があり、こどもたちの活動に合わせた空間となっている。	職員が気づいた時に掃除機をかけたり拭き掃除をするなど日常的な清掃を行っている。 お子さんたちの活動に合わせて、部屋の使い方を工夫し、ついでなどを利用して集中できる環境を整えている。 こどもが興味関心を持ちやすい教具を検討している。 発達段階や特性に配慮した環境づくりを意識している。	清潔で適切な療育環境をさらに充実させるため、お子さんの感覚特性に配慮した環境整備を検討していきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	業務負担 職員の45.8%が「職員配置は適切でない」と回答し、「一人ひとりの職員の負担が大きく、慢性的に疲れている」という意見がある。	こどもの個別ニーズへの対応、記録作成、保護者対応など多岐にわたる業務が求められている。 職員の専門性向上のための研修時間確保と日常業務のバランスが取りにくい。 支援の質を高めるための振り返りや計画策定に十分な時間が確保できないことがある。	チーム内でのスキル共有や業務分担の最適化を図り、個人に負担が集中しないしくみを検討していきます。
2	PDCAサイクルと業務改善プロセスの不足 職員の54.1%が「PDCAサイクルに広く職員が参画していない」と回答し、「振り返りの時間がもっと必要」「時間確保が必要」との声がある。	PDCAサイクルの具体的な実践方法や重要性について職員間で共通理解が不足している可能性がある。	振り返り時間を業務スケジュールに明確に組み込み、確実に実施するしくみを検討する 小規模な改善から始めていきます。